

SHOW HEYシネマルーム

★★★★★

宋家の三姉妹

1997年・香港、日本合作映画・145分
配給／東宝東和

2000（平成12）年3月29日、10月4日鑑賞＜サンケイホール＞
2004（平成16）年7月10日鑑賞＜シネ・ヌーヴォ＞

Data

監督：メイベル・チャン

出演：マギー・チャン／ミシェール・ヨー／ヴィヴィアン・ウー／ウィンストン・チャオ／チャン・ウェン／ウー・シン
グォ／ニウ・チェンホワ

👁️👁️ みどころ

宗家の三姉妹をみれば、孫文、蒋介石はもちろん、中国の近代史がわかる。スケールの大きさ、時代の躍動感など超一流の必見の作品。

＜日中問題を考える視点＞

三姉妹とか、四姉妹で有名な作品は、昔のものなら、ロシア文学はチェーホフの「三人姉妹」。アメリカでは、何回も映画化された、私も大好きな「若草物語」。そして日本では、谷崎潤一郎の「細雪」がある。

しかし、歴史的そしてまた地理的なスケールの大きさと、現実社会へ与えた影響力という点では、中国の「宋家の三姉妹」は、特別、群を抜いている。

多分、中国や台湾では有名な物語なのだろうが、私はこの映画を観るまでは、こんなすごい三姉妹がいたことは知らなかった。「李香蘭」は知っているも……。だとすれば、私より若い世代の日本人はもっと知らないだろう。

今年、2001（平成13）年の夏、日本では、小泉総理大臣が8月15日に「靖国神社参拝」をするかしないかで、激動がおきた。歴史教科書問題とともに、日中韓、三国の間で、揺れに揺れた大問題である。今年は、日程を8月13日に繰り上げて参拝することで結着したが、火種はなお一貫してくすぶっており、今後も日中韓の、歴史をめぐる大きな論点となることは明らかだ。

そしてまた、中国と台湾との問題も、近時、「ギクシャク感」が増しており、軍事衝突の可能性すらささやかれている情勢だ。これら、日・中・台をめぐる、現在の様々な問題点

はどこから生まれたのか。さらに大きな観点でいえば、日中戦争はなぜおこり、日本はどのように敗北し、中国はどのように建国され、台湾はなぜ台湾政府になったのか——この質問に対して、客観的な歴史的事実をふまえて、きちんと説明できる日本人は少ないはずだ。なぜなら、今の日本人は、日中の歴史、とりわけ近代の日中関係の歴史を十分に勉強していないからだ。

しかし、この「宋家の三姉妹」という映画を1本観たうえ、映画のパンフレットを読んで、さらに事実関係を補強すれば、どんなに難しい勉強をするよりも、楽しくかつ効率的にこれらを理解することができる。今の時代を生きる日本人としては、世代を超えて、鑑賞すべき作品である。

<三姉妹の人生>

宋家の三姉妹の長女霽齡（アイレイ）は、中国初の本格的な銀行経営にも乗り出そうという、山西省の大富豪と、親の望むまま結婚し、結果的に両親や、2人の妹を支える役割を果たした。

宋家の長女は、「富を愛した霽齡」である。なお、長女霽齡は1975年、84歳で没している。

次女慶齡（ケイレイ）は、長女と違って、親に反動的。自主、独立の途を歩もうとする。父チャーリーが同志として応援する孫文の独立運動を助けるため、孫文の秘書となって日本に渡る。そして親の反対を押し切って、孫文と結婚。孫文死亡後は、国民党の実権を孫文から引き継いだ、共産党嫌いの蒋介石と対立して、国民党を脱退。国共合作、反日統一戦争を主張する共産党を支援する。そのため、抗日・反共の蒋介石との対立は激化し、三姉妹の仲にも次第に亀裂が生じていく。

宋家の次女は、「国を愛した慶齡」である。なお、次女慶齡は1949年、中華人民共和国の建国に伴い、何と、副主席に就任。そして、1981年に88歳で死亡し名誉国家主席に就任した。

そして、三女美齡（ビレイ）は、何と、蒋介石に見初められて結婚。若い時は、どちらかという2人の姉の庇護の下におかれて目立たない存在だったが、孫文から国民党の実権を引き継いだ蒋介石の力が大きくなるにつれて、美齡の発言力は大きくなっていく。次女慶齡の反「蒋介石」の活動に眉をひそめながらも、姉を愛する気持ちは変わらない。そのため、美齡の悩みは次第に大きくなっていく。

そんな中、「中国人同士で戦うな！」との声は、次第に強くなり、抗日運動も激化。それをはねのけるように蒋介石は、共産党討伐の説得のため、中国東北地方の軍閥、張学良のいる西安へ飛んだ。そこで張学良は、逆に蒋介石を西安に監禁。抗日と国共合作への路線転換を蒋介石に迫った。これが、有名な1936年の西安事件である。

<西安事件—中華人民共和国の建国>

ここまで、歴史上の事実として多くの人が知っている。しかし、知らなかったのは、この、西安に監禁された蒋介石の救出に向かったのが、宋家の三女で、蒋介石の妻たる、美齡であったこと。彼女の説得もあって、蒋介石は路線の転換を決定する。ここに、抗日統一戦線が結成され、第2次国共合作も成立するのである。

以降、中国軍は次第に日本軍に対する組織的な反攻に転じていく。そして1945年、遂に日本は敗戦を迎える。しかし中国本土での国共の対立はなお続き、1949年、共産党が政権を獲得して、中華人民共和国が建国された。そして蒋介石は、台湾へ渡り、台湾総統となる。

まさに三女美齡は、蒋介石の妻として西安事件の「影の立役者」の役割を果たした歴史的にも重要人物なのである。

宋家の三女は、「権力を愛した美齡」である。なお三女美齡は、蒋介石死亡後、ニューヨークに住み、1998年に101歳の誕生日を迎えている。

<壮大な教科書>

孫文、蒋介石、張学良など、中国の近代史の表舞台に登場する人物は、教科書で習うことができても、次女は孫文の妻、三女は蒋介石の妻、そして長女はこれらを支えた大富豪の妻、という、「宋家の三姉妹」のことまでは、教科書は教えてくれない。この映画は、近代中国史の格好の教科書でもある。

もちろん、記録映画ではなく、娯楽作品であるため、多少事実と異なるところもあるかもしれない（らしい）が、映画としての出来は最高級で、何度観ても飽きることなく、感動を覚える、絶対お勧めの作品である。

2001（平成13）年9月4日記